

様式第2号

視察研修先	山口県美祢市議会	氏名	鈴木 みゆき
視察研修項目	美祢魅力発掘隊の取り組みについて		
<p>美祢市は人口約24,046人、山口県の西部のほぼ中央にあり、観光地として有名な秋吉台を所有している。一度見たら忘れられない美しい鍾乳洞の秋吉台は、毎年180万人～200万人の観光客が訪れていたが、年々減少し今では50万人を切ってきた。主要産業は農業、観光業、鉱業である。</p> <p>平成27年から魅力発掘隊 赤郷(あかごう)地域を活性化するために、隊員を募集するなどプランを開始した。その結果、もともと東京にお住まいの花岡さんが美祢魅力発掘隊として選ばれ就任する。知人から山口県をすすめられ、市町を見てみたいと思っていた矢先にホームページなどから定住移住に興味がある方の募集窓口を見つけ応募したところ、とんとん拍子に決まったとのことだ。</p> <p>地域の公民館長や地区の振興会の会長などからあたたかい受け入れサポートをしていただき、安心感があるので定住することができた。</p> <p>赤郷地区の高齢化率は47.2% 人口は1,500名から779名まで減少し、世帯数は横ばい。高齢化が進んでいる。美祢魅力発掘隊として地域の方々と様々な交流を深めていくと、買い物の不便さ、農業支援が必要と考えるようになる。</p> <p>現在は三年間の任期を終えたものの、美祢市に定住し市のために働いている。二名の方が市の隊員として後を継いで活躍している。</p> <p>今後はデマンド型交通(送迎)に力を入れて地域の住民の方々が買い物に行けるようにするなど対策を進めている。</p> <p>最後に、花岡さんのお人柄がとても穏やかであったことから、おそらく赤郷地区の皆様から好感が持たれたのではないかと思った。花岡さんという存在があったからこそ、行政と市民の間の潤滑油となり、地区の皆様が相談しやすくなり、市民に密着した情報を吸い上げることができたのではないかと感じた。高齢化が進むと誰にも相談できなくなり、孤立してしまうことが多い中、魅力発掘隊として市民に寄り添い話をお聞きし、共感する人がいることはとても重要なことだと思った。</p>			

様式第2号

視察研修先	山口県山陽小野田市議会	氏名	鈴木 みゆき
視察研修項目	豪雨災害対策について		
<p>山陽小野田市は山口県の南西部に位置しており、瀬戸内海に面し、下関市の隣に位置している。平成17年に小野田市と三陽市が合併して誕生した。人口は約6万人。</p> <p>災害が発生する要件として自然現象があげられるが、特に山陽小野田市は川が二つ、そして海が近い。それにより、高潮や洪水などの災害が起こりやすい。近年の災害としては平成11年9月24日に発生した台風18号が高潮被害をもたらした大きな爪痕を残した。負傷者は93名、住宅被害は全壊49棟、半壊573棟、一部破損513棟、床上・床下浸水443棟。同日、竜巻被害も発生する。</p> <p>その他にも川があるため、上流で大雨が降ると下流にあたる山陽小野田市で水位が高くなり、氾濫するなどの災害もある。</p> <p>市民を守るための防災対策として、分かりやすいハザードマップの作成、緊急情報を伝えるために、防災行政無線、防災メール、防災ラジオ、テレビ(Lアラート)、ヤフー防災速報などを備えている。これは、多方面から市民に一刻も早く情報を伝えるためである。</p> <p>特にとても良い対策と思ったのは、防災ラジオを本体9千円のところ、市が7千円負担し、市民に2千円で提供しているところだ。市から緊急情報が発表されたとき自動で起動し、放送が流れる。普段はFMラジオとしても使える。これならば、在宅で防災無線が聞き取れない耳が遠くなった高齢世帯でも聞くことができ安心だ。また、対策マニュアルが細かく構築されているようだと思った。寒河江市もいつ大きな災害が起こってもおかしくないとき常に危機感を持たなければいけない。市民へ多方面から情報を伝達するところなどは災害対策の参考として取り入れていきたいものだ。</p>			

様式第2号

視察研修先	山口県下関市議会（下関市消防局）	氏名	鈴木 みゆき
視察研修項目	消防団への入団促進の取り組みについて		
<p>下関市は平成17年に旧下関市と旧豊浦郡4町が合併し誕生した、人口約27万人を擁する県最大の都市である。本州の最西端に位置し、三方を海に開かれるとともに九州あるいは大陸への玄関口として内外交通の要衝として栄えた。</p> <p>下関市消防局は面積が広く人口も多いこともあり、6つの消防署、4つの出張所がある。平成29年度には火災8出動が407名、平成30年度は火災54出動が344名であった。</p> <p>消防団の組織としては、下関市消防団(本部)を先頭に、5方面隊、31分団、129部からなる。団員数は(平成31年4月1日現在)定員1,977人、実員1,845人うち女性68人、市職員140人、充足率93.3%となっている。</p> <p>平成19年下関消防局で消防団への入団促進のためのキャンペーン隊を立ち上げた。6名から7名雇用して組織している。</p> <p>活動内容はアンケート調査や、イベント会場等によるキャンペーン実施、ホームページの運用、マスコットキャラクターの制作。また、コカ・コーラウエスト(株)より自動販売機を消防団のPR媒体として活用し、消防団の募集及び運営資金の支援を目的として、売上金の20%が下関市に寄付される。自動販売機は市内9か所に設置された。さらに、平成28年度に総務省消防庁が実施する「女性や若者をはじめとした消防団加入促進支援事業」に関する提案募集があり、消防団をPRするCMを制作し県内の民間放送局で放送する内容で応募したところ採用された。事業費として250万円(全額国費)を利用し、CM作成業務を行った。出演者は現役の消防団員5組に出してもらった。4か月間15秒のCMを2本、51本を放送した。子供の兄弟が会話するところや、夫婦の本音をぶつけ合うところなど、素人さんの良さ、おもしろさを引き出したCMとなっている。</p> <p>CMの効果として大きな成果がなかったとのことだが、市民からしてみるとCMを見ておもしろいので、きっと話題になったのではないかと思った。また、子供達に人気のマスコットキャラクター、ペンギンの親子であるモセキ君とコモセキ君(女子高生が下関市をモセキと言っている為その名になった)など、市民の皆様が消防団の活動を身近に感じられたのではないかと思った。女性団員が多いというのも見習いたいものである。</p>			